

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第2四半期連結会計期間 (自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日) (枚)	前年同四半期比(%)
三重県	169,686	100.9
大阪府	51,606	99.5
京都府	58,342	103.6
山梨県	29,526	98.1
神奈川県	27,970	93.5
その他	89,677	109.0
合計	426,807	101.9

(2) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日) (千円)	前年同四半期比(%)	
調剤薬局事業	薬剤料	3,466,433	107.8
	技術料等	906,006	102.6
小計	4,372,439	106.7	
ヘルスケア事業	214,613	148.8	
医薬品卸事業	160,744	98.3	
不動産事業	19,035	101.8	
合計	4,766,832	107.7	

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第2四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第2四半期連結会計期間 (自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日) (千円)	前年同四半期比(%)	当第2四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,552,727	105.4	32
大阪府	736,741	107.2	9
京都府	617,973	107.8	8
山梨県	331,469	104.9	1
神奈川県	257,269	103.4	3
その他	876,256	109.6	22
合計	4,372,439	106.7	75

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、東日本大震災や原子力発電所の重大事故により国内経済・産業は甚大な被害を受け景気は大きく悪化しました。その後の復旧とともに一部に持ち直しの動きがみられるものの、原発事故の影響長期化や欧米を中心とした世界経済の減速による歴史的な円高と厳しい雇用環境が続き、景気の先行きは不透明さが増す中で推移いたしました。

このような状況の中で、当社の主力とする調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先し患者様に選ばれる店舗運営を推進するとともに事業規模の拡大に向け取り組んでまいりました。ヘルスケア事業におきましては、介護付有料老人ホームを今後の成長エンジンと位置づけし、3年間で10施設の開設を目標として、安定的な成長に向けて取り組んでまいりました。また、医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進が進められている状況下、積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の業績は、売上高4,766百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益261百万円(前年同期比17.2%増)、経常利益251百万円(前年同期比19.6%増)、四半期純利益212百万円(前年同期比94.5%増)と増収増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、店舗譲受により1店舗増加しグループ全体の調剤薬局店舗数は75店舗となりました。既存店舗において処方箋応需枚数、薬剤料、技術料が前年同期を上回ることができたことから、売上高は4,372百万円(前年同期比6.7%増)、営業利益354百万円(前年同期比17.1%増)と増収増益となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、平成23年6月に介護付有料老人ホーム「ハーモニーハウス伊賀大山田(三重県)」を開業し6施設となりました。施設の増加により、売上高は214百万円(前年同期比48.8%増)、営業利益8百万円(前年同期比90.4%増)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、積極的な営業活動を推進しておりますが販売競争が激しくなっており、売上高160百万円(前年同期比1.7%減)、営業損失0百万円(前年同期は営業利益10百万円)となりました。(内部売上高を含む売上高は231百万円となり前年同期比4.8%増。)

(不動産事業)

不動産事業におきましては、安定した賃料収入により売上高19百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益9百万円(前年同期比10.1%減)となりました。

(注) 第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。これにより事業区分へ与える影響はないため、前年同期比較を行っております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は13,532百万円となり、前連結会計年度末と比較し908百万円増加いたしました。

流動資産の合計は5,661百万円となり、前連結会計年度末と比較して470百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加241百万円、売掛金の増加174百万円によるものです。

固定資産の合計は7,870百万円となり、前連結会計年度末と比較して437百万円増加いたしました。これは主に、有形固定資産の減少37百万円、投資有価証券の増加458百万円によるものです。

負債合計は9,560百万円となり、前連結会計年度末と比較して645百万円増加いたしました。これは主に買掛金の増加213百万円、長期借入金の増加340百万円によるものです。

純資産合計は3,971百万円となり。前連結会計年度末と比較して262百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益381百万円、配当金の支払額76百万円によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は2,575百万円となり、第1四半期連結会計期間末と比較して392百万円増加いたしました。

当第2四半期連結会計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、127百万円(前年同期は80百万円)となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益390百万円、減価償却費75百万円があったものの、投資有価証券売却益120百万円、仕入債務の減少90百万円、賞与引当金の減少81百万円があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、31百万円(前年同期は169百万円)となりました。これは、主に有形固定資産の売却による収入205百万円、投資有価証券の売却による収入160百万円があったものの、投資有価証券の取得による支出288百万円、無形固定資産の取得による支出60百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は297百万円(前年同期は272百万円)となりました。これは、主に長期借入金の純増加287百万円があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。